

「くすりのしおり[®]」を活用した、 薬剤師と患者さんとのコミュニケーション促進動画 ～病棟編、在宅医療編を近日WEB公開予定！～

くすりのしおりコンコダンス委員会

平成25年1月に公開した、薬剤師と患者さんとのコミュニケーション促進のための動画*「一緒に話してみませんか？あなたと薬のこと」に続き、「病棟編」と「在宅医療編」の動画2本を、当協議会のホームページに近日公開します。

くすりのしおりコンコダンス委員会では、「くすりのしおり[®]」が有効活用されることで、医療者と患者さんとのコミュニケーション、更には「コンコダンス^{***}」の実現が円滑に行われることを目標に挙げています。

今回作成した動画の、①「病棟編」では「くすりのしおり[®]（注射剤）」を活用した病院薬剤師と患者さんとのコミュニケーションの事例を、②「在宅医療編」では家庭における残薬問題を取り上げ、「くすりのしおり[®]」を用いた薬剤師と患者さんとのコミュニケーションや情報共有の事例を紹介します。

なお、動画作成にあたり、シナリオ作成から撮影まで下記の先生方に監修していただきました。

病棟編

井手口 直子先生（帝京平成大学 薬学部 教授）

金子 健先生（慶應義塾大学病院薬剤部）

在宅医療編

伊集院 一成先生（東京理科大学 薬学部 教授）

公開は当協議会ホームページの「くすりのしおり[®]」ページにて、平成27年2月下旬ごろを予定しています。

** 「コンコダンス」とは、「患者と医療者が同じチームの一員」と考える概念で、患者さんと医療者がパートナーシップに基づき、両者間で情報共有し、対等な立場で話し合った上でより良い治療（服薬も含む）を決定し実践していくことを目指します。

*動画：一緒に話してみませんか？あなたと薬のこと

長期にわたって服用されることが多い脳梗塞の薬を例に、Part1：初めて飲む薬を処方された時、Part2：治療を続けるために～一年後～、と異なる場面での患者さんと薬剤師のコミュニケーションの一例を収録しています。



くすりのしおりやパンフレットを使って
正しく理解してもらえよう説明する

《 Part1：初めて飲む薬を処方された時》



《 Part2：治療を続けるために～一年後～》

「くすりのしおり[®]」 ホームページ



<http://www.rad-ar.or.jp/siori/>

コンコダンスの概念図



患者中心の 医療のイメージ



患者さんもチームの一員